

軍事化する社会

5月23日、神戸大で「学術会議問題と大学での軍事研究のあり方を考える」集会が開催された。国会では「学術会議法案」の審議が山場をむかえていた。講演者は隠岐さや香さん（東大教授）。大学関係者や市民など約70名が参加した。この間神戸大では、2017年の学術会議の「軍事的安全保障研究に関する声明」を受け、学長通知で「大学から生まれる研究成果は軍事目的ではなく平和利用されるべき」とした方針が、2025年4月に撤回され軍事研究への応募自粛が解除されていた。この結果、学内から防衛省の「安全保障技術研究推進制度」（政府25年予算100億円）への申請提案が7件あり、学内審査で今年度は応募を見送ることとなった。



隠岐さんは「大学における研究技術開発が一段と軍事化の道を歩み始めており、学術会議法案はそれを一層加速するものだ」と指摘した。また参加した教員は神戸大の今回の方針転換は「平和のための研究活動という規範を投げだしたものだ」と語った。

今年3月神戸港に米国掃海艦が「非核証明書」を提出せずに入港した。1975年神戸市議会では全ての外国艦船に核兵器を搭載していないことを示す「非核証明書」を義務づけ、神戸港の管理者である神戸市はこれを遵守してきた。久元市長は入港後の記者会見で「今後は個別事案に応じて判断する」と述べた。非核「神戸方式」の空洞化が懸念される状況が生まれている。

一方日本政府は民間の空港や港湾を軍民共用するために「特定利用空港・港湾制度」（政府25年予算968億円）による指定を拡大（11空港、25港湾）、施設の拡張、拡充を急速に進めている。

また神戸市は、防衛省の自衛官募集に対して、18才および22才の若者の名簿を電子データで提供しており、現在神戸地裁で個人情報を巡る訴訟となっている。

軍事体制の強化、拡大は兵器や基地などの軍事力の拡大強化にとどまらず、私たちの身の回りの生活に深く浸透しつつある。この状況は、社会の軍事化として捉えるべき状況を表わしているのではないだろうか。

石垣りん「赤い手紙の思い出」（抜粋）

「もしかして今日舞いこんだ白い紙が、あの赤い紙の親類ではないかと」

（文責）春日台・大西



◆8月のつどい 8月17日（日） 14:00~16:00

テーマは「学術会議法について」

西区文化センター2階第1会議室 参加費 300円

◆9月のつどい 9月14日（日） 14:00~16:00

講師 松山秀樹弁護士 「自衛隊名簿提供問題」（仮題）

西区文化センター2階第1会議室 参加費 300円

Act Now 1(イ千)の日行動にご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は2025年8月1日(金)16:00~17:00

東京都議選から参院選を占う

6月22日、参院選の前哨戦とも言われ、全国が注目していた東京都議選の投票がおこなわれました。結果はご存じの通り、自民が大敗、新興勢力が躍進となりました。獲得議席からみると減少したのは自民、公明、共産、維新。増やしたのが立憲、国民、参政という結果に。第1党に返り咲いた都民ファーストは±0でした。こうした傾向がそのまま参院選に結びつくかといえば、そう簡単ではなく、やはり都議選は地方選挙であり国政選挙＝政党選択ではないこと、さまざまな地域政党が選択肢にあることなどです。

また、127議席を42の選挙区で争い、定数1の小選挙区もあれば定数8の大選挙区もあり、単純な比例票はみえにくくなっています。

あえてこの結果から参院選を占うと、自・公・共・維は議席を減らすであろう、その分を立憲・国民・れいわがどれだけとるか、参政党がどれだけ議席を得るのか、が焦点かな、と。しかし、このカルト政党がなぜ支持を広げているのか、謎です。

(美賀多台 k)

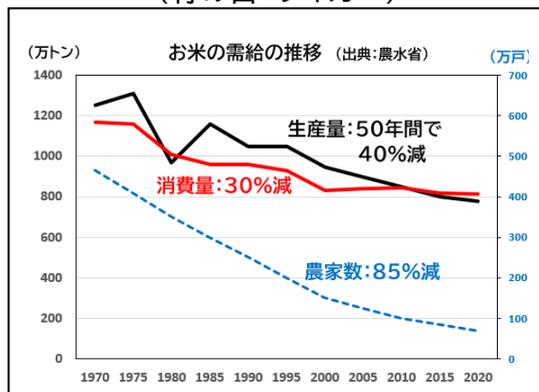
6月のつどい「守ろう 日本の食と農」を聞いて

折からの米不足と異常値上げで戸惑う中、兵庫食健連会長の柳澤尚さんに令和米騒動の根本原因を掘り下げて戴きました。(6/15、25名参加)

元々、米余りを恐れた自民党政府の減反政策(1971～2017)と、農家の高齢化に伴う生産力の減退が続く中、政府が食管制度を放棄し(1995)、輸入や流通の自由化を部分容認したことが農家にとって逆風となりました。その結果、下図の通り、米の生産量が消費量に接近して推移して来たのが今回の米騒動の主因です。加えて、近年、異常高温による米の品質低下、コロナによる学校給食の停止や外食減で流通が目詰まりしたのも一因のようです。

さて、日本の食糧自給率は38%、世界最低水準ですが、農家の減少にも拘らず、米だけは99%自給と頑張っ戴いています。しかし、農家の頑張りにも限度があります。各国では農家への助成が実に手厚いのですが、日本ではシヨボいのが実態です。膨らむ防衛予算8.7兆円に対し、農水予算は2.3兆円(cf.米国の農水予算:31兆円)、冷静に考えれば、「食の安全保障」は何ともお寒い状況なのです。

長く続いた減反政策、TPP自由化、シヨボい助成はいずれも自民党政府の失政ですが、根本議論より小泉農水相の備蓄米放出など小手先の施策に幻惑される世論が気になります。また、TVで米価高騰が騒がれると、すぐ買占めに走る短慮も自分達の首を絞めます。冷静な購買行動による需給の緩和で米価が反落し、セコい流通在庫を開かせることも可能なのです。質疑で柳澤さんが強調された「生産者と消費者の連携・対話」や「持続可能な適正米価」が「食の安全保障」を再建する第一歩と確信しました。(竹の台 タイガー)



ジョー句



お題「夕立」

夕立に こども駆け出す 虹出てる (空耳)

自由題

忘れるな 砂に遺骨の 混じる島 (伝伝)
金婚式 未だに潜む 不発弾 (現妻)

8月のお題は「水平線」

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

2025年7月 発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

[連絡先] TEL 090-3359-0776(大西)



HPへリンク

